

防犯設備士になって

防犯設備士 第09-20147号

原田 満紀子



1. はじめに

私が防犯設備士の試験を受けたのは平成21年11月のことです。

私は、それまで業務用厨房機械の卸会社で「業務用厨房小物の受発注や管理」「会社全体の見積もりや請求書作成」「売掛金・買掛金の集計や管理」「帳簿の管理」などの営業事務をしていました。

そんな私に転職が訪れたのは一年程前のことです、総合防犯設備士の知人が、防犯設備士の存在を教えてくれたのです。そして防犯設備士の仕事がとても有意義であり、いかにこれからの日本にとって必要不可欠であるかを知ったのです。社会的貢献のある仕事への転職を考えていた私は、それから一念発起して、防犯設備士の資格取得へ動き出したのです。しかし、事前に届いた試験テキストを見てみると「防犯の基礎」「電気の基礎」「設備機器」「設計」「施工」「維持管理」「工具・測定器・材料」と、私のような畑違いの仕事をしている者にとっては非常に難しく、また専門的知識が要求されており、全くゼロからの試験勉強となったのです。

2. 恐怖の体験

実は、私が防犯設備士を目指した理由はもう一つあります。それは、さかのぼる事二十数年前のある出来事が大きく影響しています。当時まだ学生だった私はとても怖い経験をしたのです。

私の実家は、周りに民家がぼつぼつとしかなく、とても静かな場所にありました。一軒家で二階建ての家でした。一階には北向きの玄関と、南向きのダイニングキッチンに吐き出し窓、その西隣には南向きの和室に吐き出し窓があり、二階は東西二部屋あり、それぞれ南向きの窓がありました。私の部屋は二階の西側の部屋で、窓から見える景色はとても穏やかで、小さな道路を隔てた向こう側に竹林が広がり、私は時々竹林に遊びに来るすずめやメジロなどを観察するのが好きでした。そんな実家は過去に2回空き巣に入られた事があり、一度目は、一階ダイニングキッチンの吐き出し窓を打ち破りされ、二度目はもう一方の和室の吐き出し窓を打ち破りされました。私の父は、防犯対策の基本原則である「音」「光」「時間」「目」を考え、ブザー付センサーライトを玄関と吐き出し窓の二つに取り付け、一階や二階の窓には上下の補助錠を付けました。

そんなある日、私は近くへ買い物に出掛けました。30分程後、私が帰宅すると、父と母が顔色を真っ青にして、私の帰りを待っていました。ただ事ではないと思った私が父母に聞いたところ、私が出掛けた後、一階にいた父が、誰もいないはずの二階からコトコトと小さな音が聞こえたので、不審に思い二階へ上りかけると、突然、私の部屋で誰かが走る音がして、ダン！！という大きな音、続いてダ・ダ・ダン！！と、誰かが逃げる音を聞いたらしいのです。父はすぐさま私の部屋へ行き窓から外を見たそうですが、すでに人影はなかったそうです。私が帰宅する5分程前の話だそうです。父はすでに警察に電話をしていて、ほどなく警察が来ました。盗られた物を調べてみると、私の下着が無くなっているのが分かりました。つまり下着泥棒だったのです。

警察の方がおっしゃるには「侵入経路は南西方向より家の周りのフェンスによじ登り、フェンスから一階の和室のひさしに移り、二階の部屋に侵入したらしい」「逃走経路は、慌てた犯人が和室のひさしから直接地面に飛び降り、来た方向と逆の北東へ逃げ、玄関前の門より外へ出たらしい」「犯人は26cmの足の大ききでスニーカーのような靴を履いていた、おそらく男でしょう」と言われました。これは犯人がひさしや地面に残した足跡より分かった事でした。また、「日頃から私が窓から外を眺めているのを、犯人もどこからか見て

いて、私の着替える姿や行動を眺めていたのではないかと、そして私に興味を覚えた犯人が忍び込んだのではないかと「犯人の目的が下着だけならよいが、わざわざ侵入していることをみると、当分の間は警戒して下さい」とも言われました。短時間で戻るとの私は、父母が在宅しており、また、まさか二階に泥棒が入る事はないと決めつけてしまい、窓に鍵をかけず出掛けてしまったのです。

私は反省し、家人がいても外出する際は常に鍵をかける事を心がけました。しかしそれ以降、誰かが私の部屋を覗いているような気がして、とても好きだった鳥の観察も怖くなり止めてしまいました。そして、学校の行き帰りには常に周りに神経を張り巡らせるなどの疑心暗鬼に陥ってしまいました。幸い何事もなく時が経ち、今では元気な私ですが、その時の恐怖は今でも忘れられません。

以上の経験から、私は犯罪に弱い立場の女性や子供達を「卑劣な犯罪から守るお手伝いが少しでも出来れば」という漠然とした思いと「卑劣な犯罪を憎む」気持ちから、試験を受けたのです。

3. 猛勉強

猛勉強の甲斐があり21年12月に無事合格することができました。出来たてホヤホヤの防犯設備士です。試験勉強はまず教科書の音読から始まりました。丸暗記する位のつもりで何度も読みました。例題は何度も計算したり、図に書いたり、また総合防犯設備士の知人の助けを借りながら勉強しました。試験前にあった講習では、とてもわかりやすく説明して下さいだったので、理解するのにとても助かりました。久しぶりの勉強は、今思えばとても良い頭の刺激になったと思います。防犯はとても奥が深く、まだまだ防犯について勉強をしていかなければならないと思っています。私はこの防犯設備士を足がかりに、今後はさらにその上の総合防犯設備士の資格取得を目指していきたいと思っています。昨日、名古屋市中小企業振興会館へ、第一回愛知県防犯住宅コンテストの表彰式を見に行ってきました。主催者より「建築設計段階からの防犯住宅づくりは、全国的にもあまり普及されていない」とのご挨拶があり、今後に課題も残したようですが、しかしながら愛知県で全国初の、このようなコンテストが行われた事は「防犯面で優れた住宅普及の促進につながる第一歩なのだ」と思いました。

4. これからの私

私のこれからは、愛知県警察委嘱の愛知県セルフガード協会に個人会員として申し込みさせていただき、防犯設備アドバイザーとしてボランティア活動を行っていききたいと思っています。女性や子供達が集まる小学校や中学校での講演を通じて防犯対策の呼びかけや、また各種イベントに参加し、防犯診断などをして、地域の方々に防犯への関心を高めてもらえるようにしていきたいと思っています。そして、私が過去に過ちを犯したように、ちょっとした心の油断が、とても大きな犯罪に巻き込まれてしまう可能性を秘めている事、何気ない日常の中に、思いもかけない犯罪が潜んでいる事、それは、私たちの意識一つで何十倍もの防犯力向上に繋がる事などを伝えていきたいと思っています。

5. 最後に

犯罪は年々凶悪化し、手口も巧妙化しています。また、近年稀に見る景気悪化による犯罪増加などもあり、世の中は混沌としています。防犯の第一歩は、まずは「自分の身は自分で守る」意識をもつこと。その為には「個々の防犯知識を向上させる」事、そして「一つずつやれることからやる」事が大切だと思っています。「みんなで防犯」を合言葉に、私は今後、犯罪抑止のお仕事に携わっていききたいと思っています。

末筆になりましたが、最後までご覧ありがとうございました。